

明治以降の明暗寺の資料紹介

飯塚恵理人

一 はじめに

愛知県（注）の虚無僧尺八は明治維新期の普化宗の廃宗に伴い、浜松普大寺の虚無僧に習った兼友西園の流れを汲む弟子の集団が尺八西園流を組織し、「音楽」として再出発した。この西園流の鈴木孝道が京都の樋口家を相続し、「樋口対山」として京都の東福寺塔頭の善慧院に明治二十三年に明暗教会を組織して宗教組織としての普化宗を復興したので、それ以来西園流と京都の明暗対山流の関係は大変深いものになっている。樋口対山が樋口家を相続する前の名古屋で（注）の鈴木孝道時代に兼友盛延に師事したことについては、『明暗教会譯教 樋口對山遺譜』に書かれている。善慧院に明暗教会が置かれた時点で普化宗としての復興が京都府に認められた訳ではないが、尺八本曲を「吹禪」とする教義を持つ宗教組織としての「教会」を寺院内に設けたのだから、この時を実質的な普化宗の復興と考えてよいだろう。

本稿では、明暗寺が発行したパンフレットの紹介、京都府総合資料館を通して京都府文化環境部文教課宗教法人担当に伺った明暗寺

の行政的な位置付け、明暗対山流尺八のLPレコード・無竹忌の記念写真などから伺われる明暗流の主な演奏家の紹介などを通して、近代の尺八本曲の歩みにおける明暗対山流の歴史研究の研究基盤を構成することを目的とする

二 明暗寺発行のパンフレットによる明暗寺虚無僧尺八の歴史と明暗寺の行政的な位置付け

尺八西園流六世宗家岩田西園師は、「虚霊山 明暗寺」という題の、明暗寺住職平住恵光が発行したパンフレット（以下パンフ）を所有しておられる。今回、岩田師よりこのパンフのコピーを頂くことが出来たので、このパンフに基づき明治以降の明暗寺の歴史について述べたい。

このパンフは年記や奥書がないため発行年月日が不明だが、平住恵光による前書に「以前に『明暗寺所伝本曲要説』（昭和四十七年十月発行）が発刊されて、以来早くも十五年が年月たち、残部も無く、また記載の訂正箇所もございましたので、新たに明暗寺の葉としてパンフレットを刊行いたしました。」と書かれているので、昭

和六十二（三年頃、昭和末期の発行と考えられる。

このパンフには「(三) 明治以後の明暗寺」^(注三)として、明治二十年代以降の明暗寺の歴史が記されている。以下に引用する。

明治二十三年七月に、「明暗教会」が設立され規約を制定し虚無僧行化の印鑑（吹簫行化証）を発行して、一般僧侶の托鉢法規に準拠し、虚無僧風儀の再現を見るに至りました。初代会長は爾瓊林、二代爾以三、三代安田天山、四代平住恵雲、現在は平住恵光の各師が其の任に就いています。明暗教会設立に伴い、樋口対山が教会の訳教師（尺八指南役）となり、散佚せる明暗寺所伝本曲の蒐集、整備、復興に専心努力して、中興の祖として中絶せる法系を承けて三十五世（看主対山孝道居士―大正三年十一月二十二日寂）となりました。大正三年、対山歿后に小林紫山が三十六世（看主紫山治道居士―昭和十三年十一月二十七日寂）を継承し、終生明暗本曲の宣揚と指導とに当たり、師伝の曲から三十二曲の譜を整備し、更に明暗古典本曲を定型化し、明暗寺所伝本曲の吹奏の基礎を確立致しました。昭和十三年に小林紫山が歿し、其後の約十年間は法系継承が杜絶してしまいましたが、昭和二十四年明暗道人並びに各流宗家の推挙により谷北無竹が三十七世（看首琅庵無竹居士―昭和三十二年三月二十四日寂）を継承しました。

またこれに続き「(四) 現在の明暗寺」^(注四)という太平洋戦争後から昭和末期までのことが書かれた項目もあるので、これも以下に引用する。

昭和二十五年三月、宗教法人「明暗寺」が設立、登記認可され、再び尺八禪の復興を見るに至りました。住職は安田天山

（後に東福寺第三〇二世管長）が初代であり、明暗寺の復興独立に尽力の後、昭和二十八年に職を平住台山に譲り、現在は平住恵光が其の職を務めております。昭和二十六年二月二十三日に中尾都山、上田芳憧、兼安洞童、谷北無竹、大西梅僊、柴田聖山、藤井茂樹、高藤円応、秋月真海、板野双春、源野勲山、小泉止山、（献曲録の署名に依る）の各氏が、虚竹禅師を日本尺八道の開祖と仰いで「虚竹禅師奉讃会」の発議がなされました。「虚竹禅師奉讃会」の結成に当たり初代理事長には中尾都山が就任しました。中尾都山歿后に上田芳憧が、昭和四十六年四月には上田佳道が理事長の職を継いで現在に至っております。「虚竹禅師奉讃会」の主催で昭和二十七年十月十七日に第一回の尺八本曲の献奏大会が開催されて以来、毎年流派を問わず開祖の威徳を慕う全国の尺八道人に依って、秋は京都の明暗寺で、春には各地の道人の骨折でそれぞれ「全国尺八本曲献奏大会」が開催され、六十五回（昭和六十二年現在）を数えるに至っております。（中略）かくして普化宗としての明暗寺の復興以来、善慧院の本堂に合祀されていきました、開山像、靈牌等安置すべき明暗寺としての本堂の必要が痛感されていきましたが、未だ時機到来せざりしも昭和四十一年六月に尺八碑としての「吹簫碑」並びに尺八各流派の先亡道人の分霊を祀る「安霊塚」が建立され、漸く機縁熟し本堂建立の機運が台頭してまいりました。道人諸氏の絶大なる支援協力に依りまして、昭和四十四年六月建築に着工、同十月二十六日に落慶式の挙行をみるに至り、永年の宿願を達成し、尺八の本山としての面目の確立をみるに至りました。

「(三) 明治以降の明暗寺」の引用文にあった通り、明治維新期に政府の方針により普化宗が廃宗とされ、その際一旦廃絶した明暗寺

は、明治二十三年七月に「明暗教会」設立で復興したことになる。では、現存する「明暗寺」はどのような行政的位置付けがなされているのだろうか。この度、京都府総合資料館を通じて京都府文化環境部文教課宗教法人担当の方に、明暗寺に関する行政文書の所蔵の有無について伺ったところ、下記のような回答を頂いた。

(前略)

1 京都府が所轄する宗教法人の中には「普化宗」「普化正宗」という名称の宗教法人はございません(注1)。

2

「明暗寺」は京都府が認証をした宗教法人です。認証の詳細は以下のとおりです。

(1) 名称 明暗寺

(2) 所在地 京都市東山区本町15丁目797番地

(3) 認証日 昭和29年2月24日

(4) 設立登記を行った日 昭和29年10月5日

3 行政上の登記は、主要項目は上記のとおりです

注1 宗教活動は宗教法人格を取得しなくても自由に行っていただけです。「普化宗」や「普化正宗」を名乗られる宗教団体がある可能性があります。明暗寺さんが名乗っておられるかどうかは直接お尋ねください。

注2 お問い合わせの中で「明暗寺」の再興が昭和25年と記載しておりましたが、上記回答2のとおり認証が昭和29年2月24日、登記昭和29年10月5日ですので、正式に法人となったのは後者の日付けということになります。

ただ、注1のとおり、宗教活動自体は自由ですので、昭和25年から活動しておられたのかもしれませんが。時期の特定が必要であれば直接明暗寺にお尋ねください。

担当…京都府文化環境部文教課宗教法人担当(後略)

この回答より、「明暗寺」は京都府が認めた「宗教法人」であることが分かった。これは娯楽のための「音楽会」ではなく「吹簫」としての宗教行事・法要として尺八本曲の演奏を行う宗教法人であり、江戸期の「普化宗」の教義を継承していることは確かだろう。ただし現在の明暗寺は京都府の「宗教法人」ではあるものの、「普化宗」「普化正宗」の宗派の登記はしておらず、法的には「普化宗」「普化正宗」を名乗る根拠はないようである。ただ実際には明治維新期に廃絶した普化宗を宗教法人として復興し、現在までその立場が続いているものと認めてよいだろう。

「普化宗」が江戸期に問題視されたのは、虚無僧が集団で托鉢行動して無料の止宿や食事を要求することが村の大きな出費を招くためだった。明治以降になると、尺八は「趣味の音楽」として民間に認められていくようになったこと、尺八演奏者が托鉢で生活を立てる虚無僧から、社会の変化により様々な「本業」を別に持つ者になり、もはや托鉢を生活の中心にすることがなくなったことも「普化宗」の復興の背景にあるように思われる。

三 谷北無竹と谷北無竹時代の録音・レコードについて

明治期の明暗教会設立の中心であった樋口対山、対山の楽譜から三十二曲を選んで整備した小林紫山はいずれも明暗対山流の成立に大きな影響を与えた。しかし彼らに比しても、太平洋戦争後、明暗寺の看首となり、樋口対山の遺した楽譜をまとめた三十七世谷北無竹の功績は明暗対山流の歴史の上に大きいと考えてよい。

谷北無竹の略伝については、愛知県在住の尺八愛好家稲垣束(筆名稲垣衣白)氏が中心となり出版された『対山譜拾遺 明暗三十七

世谷北無竹集』にまとめておられるので引用すると、「谷北無竹師

略伝 明治11年9月28日生、京都府愛宕郡八瀬村字南田（現京都市

左京区八瀬秋元町）、本名兼三郎、家業は紫葉漬の製造販売。教職、

村長をつとむることありという。詩文をよくし、能筆なり。明治29

年ころの夏に、鷹屋有竹氏（越中砺波郡南野尻村の人、本名祐福）

より尺八の手ほどきを受く（無竹師談）。明治41年9月樋口對山師

に入門す。（入門状）（初傳、中傳の時期は不明）明治45年夏奥傳を

うく（許状）大正2年春別傳をうく（許状）（大正3年11月樋口對

山師没）（昭和13年11月小林紫山師没）（昭和17年10月勝浦正山師没）

昭和24年11月13日明暗37世に就任す 昭和28年11月同引退 昭和32

年3月24日没、戒名『琅聲院明暗無竹居士』となる。

「尺八」は「音」であるので、録音によってその實際を伝える事

が可能である。筆者は明治期から昭和期の伝統芸能を収録した蓄音

機レコード等の音源を収集・整理して研究室ホームページより発信

しており、三曲・尺八本曲音源の蒐集にも努めているが、二〇一四

年十月現在時点において樋口對山、小林紫山の音源は収集できてい

ない。ただ谷北無竹は戦後まで活躍したため、その演奏の一部が前

出の稲垣東氏によって録音された。氏は、無竹の演奏を含む昭和

二十年代後半から録音した明暗對山流の尺八曲を数枚の私家版

LPレコードに作成し、関係者に頒布した。筆者はこれらのレコー

ドを岩田西園師より提供して頂き、音源のデジタル化を行った。レ

コードは既に制作から五十年以上を経過し著作権が消滅しているの

で、作成したデジタル音源を、提供者である岩田師の許可を得て梶

山女学園大学飯塚研究室ホームページより配信した。配信している

曲のリストを表に示した。

(<http://eami.ci.sugiyama-u.ac.jp/~izuka/eritof/watal.html>)

四 明暗對山流及び愛知県内の代表的な尺八演奏家の顔写真

尺八の流儀は、一人の演奏家が複数のグループに参加して演奏活動することが可能である点が一つの特徴である。六世岩田西園師も西園流の宗家でありながら明暗對山流の行事である無竹忌に参加されている。よって当時の会の写真などがあれば、その流儀だけでなく他の流儀の演奏家も会への参加の有無が特定できる。しかし、昭和期の演奏家の顔を覚えておられる方々が高齢化してきている現在、手を拱いていると写真が残っていてもそれが誰なのか、もはや分からなくなってしまう。本稿では、年代別に岩田師より尺八演奏家の写真を御提供頂き、同氏に教えて頂いた人名を写真内に記入して掲載した。これにより明暗對山流に所属した各時代の代表的な演奏家の名前とその顔を記録に残し、顕彰する。

写真① 野村成山師追善尺八演奏会（於名古屋市中村区上米野町中

村児童会館 昭和33年3月9日 岩田西園師撮影）同氏より研究室にこのプログラムコピーも提供して頂いた。野村

成山は初代平塚晃山の弟子で都山流で活躍した。

写真② 第15回全国尺八本曲大会（於大阪大閤園 昭和36年5月14

日）

写真③ 第1回創立記念尺八本曲大会（於春日莊別館 昭和40年2

月12日）写真の台紙に「かすが莊（瑞穂区桜山）」とあり、

現在の名古屋市瑞穂区桜山と考えられる。

写真④ 明暗寺法系第四十一世看首 児島抱庵傳法会（平成3年12

月1日 於明暗寺）

写真⑤ 第40回無竹忌（於明暗寺 平成24年3月18日）

写真⑥ 第41回無竹忌（於明暗寺 平成25年3月17日）

五 まとめ

戦後、尺八は三曲合奏のみならず演劇のバックミュージックとしても多く使われた。ラジオドラマ・テレビドラマにおいて効果音的に使用された事例も多い。バックミュージックや効果音としての演奏の場合、演奏者名が放送番組のクレジット等に記されていない場合は多かったが、出演した演奏家が自己の記録としてスタジオでの録音やその時の写真を私的に保存していることが多くあった。「アーカイブ」という概念がなかった時代の放送局では相当量の放送資料が破棄されてしまったので、今日ではこれら私的に保存されていたものも、その時代の放送文化・演劇・音楽の實際を伝える貴重な資料となる。今回は尺八西園流六世宗家岩田西園師にご協力頂き、御提供頂いた明暗寺関係の資料を報告させて頂いた。今後も東海地域の放送資料・古典芸能関係資料を広く収集・整理してアーカイブを作成し、そこから古典芸能の担い手と質の変遷、放送が古典芸能をどのように変えて来たのかについて考察したい。

参考文献

- 一 「愛知県における尺八西園流の成立と変遷について―明治維新から昭和初年まで―」、飯塚恵理人、「愛知県史研究」第十八号、愛知県、平成二十六年三月発行 六一―六九頁
- 二 『明暗教会譚教 樋口對山遺譜』稲垣衣白編 明暗寺明暗教会 昭和五十一年十一月発行 二五八―二五九頁
- 三 「虚霊山 明暗寺」パンフレット 発行 明暗寺住職平住恵光 五頁
- 四 注三 五一―六頁
- 五 『對山譜拾遺 明暗三十七世谷北無竹集』編者 稲垣衣白 出井静山 高橋呂竹 発行者 谷北廉三 昭和五十六年一月発行 私家版 非売品 表紙

裏

補記

明暗寺の行政的位置付けについて詳細に御回答下さった京都府総合資料館、京都府文化環境部文教課宗教法人担当に感謝致します。また貴重な資料を御提供頂きました尺八西園流六世宗家岩田西園先生、岡崎市永田モータースに心より感謝致します。本研究は平成25年度放送文化基金助成による成果の一部となります。記して感謝申し上げます。

いづか・えりと／文化情報学部教授
E-mail : erito@sugiyama-u.ac.jp

LPレコード一覧

(永田氏)				
演奏者1	演奏者2	レコード番号1	レコード番号2	備考
山上月山 (病中)	佐藤鈴童・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5094	
山上月山 (病中)	佐藤鈴童・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5094	
山上月山 (病中)	佐藤鈴童・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5095	
山上月山 (病中)	佐藤鈴童・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5095	
山上月山 (病中)	佐藤鈴童・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5096	
山上月山 (病中)	佐藤鈴童・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5096	2-4 吹奏：佐藤鈴童
佐藤如風	佐藤二郎・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5088	
佐藤如風	佐藤二郎・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5088	
佐藤如風	佐藤二郎・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5089	
佐藤如風	佐藤二郎・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5089	
佐藤如風	佐藤二郎・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5090	
佐藤如風	佐藤二郎・高橋呂竹編	LP33RPM	TRS5090	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5105	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5105	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5106	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5106	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5107	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5107	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5108	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5108	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5109	
谷北無竹	谷北一声編	LP33RPM	TRS5109	
1, 2：今仲章月 3：佐藤如風	谷北一声編	LP33RPM	TRS5110	
1, 2：佐藤如風 3：小泉了庵	谷北一声編	LP33RPM	TRS5110	
宮川如山		OG-586		第Ⅶ集
磯一光		OG-586		
瀧谷治朗		OG-601		第Ⅷ集
1：瀧谷治朗 2：佐藤忠造		OG-601		
谷北兼三郎		OG-615		第Ⅸ集
谷北兼三郎		OG-615		
谷北兼三郎		OG-616		第Ⅹ集
谷北兼三郎		OG-616		
谷北兼三郎		OG-617		第Ⅺ集
谷北兼三郎		OG-617		
1：佐藤忠造 2：塚本凱男 3：瀧谷治朗		OG-618		第Ⅻ集
瀧谷治朗		OG-618		
谷北兼三郎		OG-573		第Ⅰ集
谷北兼三郎		OG-573		
谷北兼三郎		OG-574		第Ⅱ集
谷北兼三郎		OG-574		
谷北兼三郎		OG-575		第三集
谷北兼三郎		OG-575		
谷北兼三郎		OG-576		第Ⅳ集
谷北兼三郎		OG-576		
瀧谷治朗 3, 4：浦本政三郎		OG-577		第Ⅴ集
瀧谷治朗		OG-577		

表 岩田西園師提供尺八

尺八LP

番号	レコード会社	分類	曲目
1	TOKYO RECORDING SERVICE	明暗真法流尺八(Ⅰ)	1. 本曲之調子 2. 三谷之曲 3. 紫鈴法曲
2	TOKYO RECORDING SERVICE	明暗真法流尺八(Ⅰ)	1. 戀慕流 (3段不良) 2. 手解鈴法 3. 滝落之曲
3	TOKYO RECORDING SERVICE	明暗真法流尺八(Ⅱ)	1. 艸霧海虎 2. 艸虚鈴 3. 艸虚空
4	TOKYO RECORDING SERVICE	明暗真法流尺八(Ⅱ)	真霧海虎 [1段～4段] (2段中間欠)
5	TOKYO RECORDING SERVICE	明暗真法流尺八(Ⅲ)	1. 真虚空曲 2. 伊豫戀慕 (又は鈴慕)
6	TOKYO RECORDING SERVICE	明暗真法流尺八(Ⅲ)	1. 真虚鈴曲 2. 焼香文 3. 懺悔文 4. 鉢返
7	TOKYO RECORDING SERVICE	佐藤如風の尺八(Ⅰ)	1. 本手調子 2. 瀧落 3. 三谷
8	TOKYO RECORDING SERVICE	佐藤如風の尺八(Ⅰ)	1. 大和調 2. 虚空 3. 霧海虎
9	TOKYO RECORDING SERVICE	佐藤如風の尺八(Ⅱ)	1. 鹿遠音 2. 鳳叫 3. 鈴慕 (竹調)
10	TOKYO RECORDING SERVICE	佐藤如風の尺八(Ⅱ)	1. 鈴慕 (瀧落・鉢返) 2. 参安 3. 阿字観
11	TOKYO RECORDING SERVICE	佐藤如風の尺八(Ⅲ)	1. 一二三調 2. 志図 3. 善哉 4. 秋田菅搔
12	TOKYO RECORDING SERVICE	佐藤如風の尺八(Ⅲ)	1. 九州鈴慕 3. 門開喜 4. 虚鈴
13	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅰ)	1. 本手調子 2. 瀧落 3. 三谷 4. 九州鈴慕
14	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅰ)	1. 一二三調 2. 鉢返 3. 志図 4. 善哉
15	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅱ)	1. 門開喜 2. 吾妻獅子 3. 恋慕流 4. 大和調
16	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅱ)	1. 奥州流 2. 打波 3. 秋田菅搔 4. 転菅搔
17	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅲ)	1. 深夜 2. 巢鶴 3. 陸奥鈴慕
18	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅲ)	1. 雲井獅子 2. 虚空 3. 虚鐸
19	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅳ)	1. 虚鈴 2. 虚空 (全曲)
20	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅳ)	1. 霧海虎 2. 阿字観 3. 鈴慕 (又は宮城野鈴慕)
21	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅴ)	1. 鹿遠音 2. 鶴巢籠 3. 栄獅子 (前半)
22	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅴ)	1. 栄獅子 (後半) 2. 鳳叫虚空 (又は鳳叫) 3. 龍吟虚空 (又は龍吟)
23	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅵ)	1. 調子 2. 虚空 3. 鈴慕前半
24	TOKYO RECORDING SERVICE	谷北無竹の尺八(Ⅵ)	1. 鈴慕後半 2. 参安 3. 栄獅子
25	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	1. 阿字観 2. 鉢返 3. 調子 4. 虚空
26	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	1. 調子 2. 雲井 3. 高嶺サシ
27	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	1. 阿字観 2. 岡崎明童の鈴慕
28	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	1. 龍吟 2. 参安
29	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	1. 陸奥鈴慕 2. 善哉 3. 栄獅子
30	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	1. 虚空全曲 2. 鈴慕
31	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	曲の話 (その1)
32	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	曲の話 (その2)
33	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	対談
34	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	対談
35	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	1. 阿字観 2. 筑紫鈴慕 3. 錦風流尺八の話 (その1)
36	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八及び拾遺	錦風流尺八の話 (その2)
37	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 調子 2. 一二三調 3. 鉢返 4. 瀧落 5. 三谷
38	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 九州鈴慕 2. 志図 3. 善哉 4. 奥州流
39	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 秋田菅搔 2. 門開 3. 転菅搔
40	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 吾妻獅子 2. 恋慕流 3. 深夜
41	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 巢鶴 2. 雲井獅子 3. 虚鐸
42	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 虚空 2. 霧海虎
43	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 虚鈴 2. 鹿遠音
44	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 鶴巢籠 2. 鳳叫 3. 龍吟
45	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 栄獅子 (欠盤) 2. 阿字観 3. 鈴慕 4. 参安
46	TOKYO RECORDING SERVICE	対山流尺八	1. 調 2. 鶴巢籠



写真1

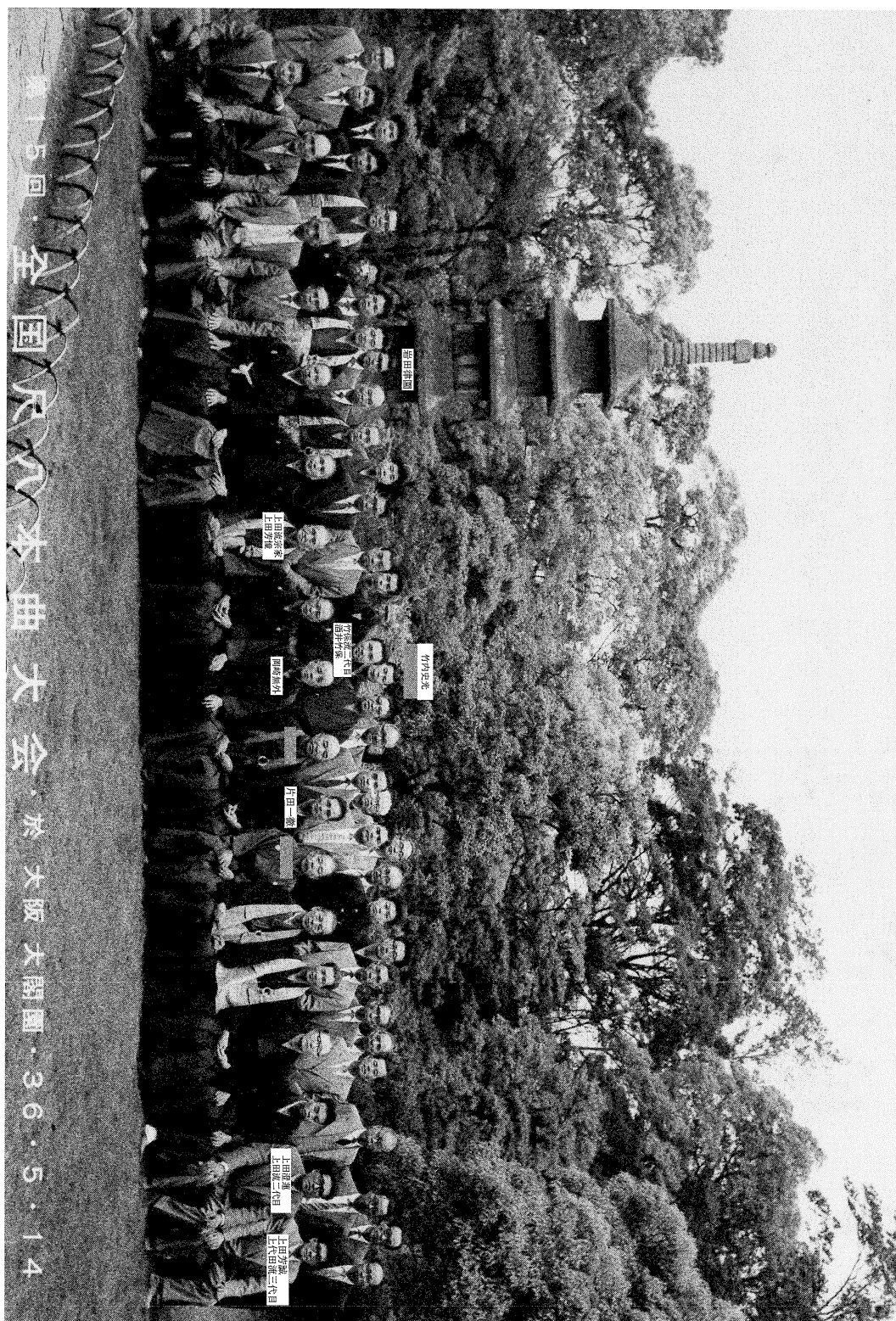


写真2

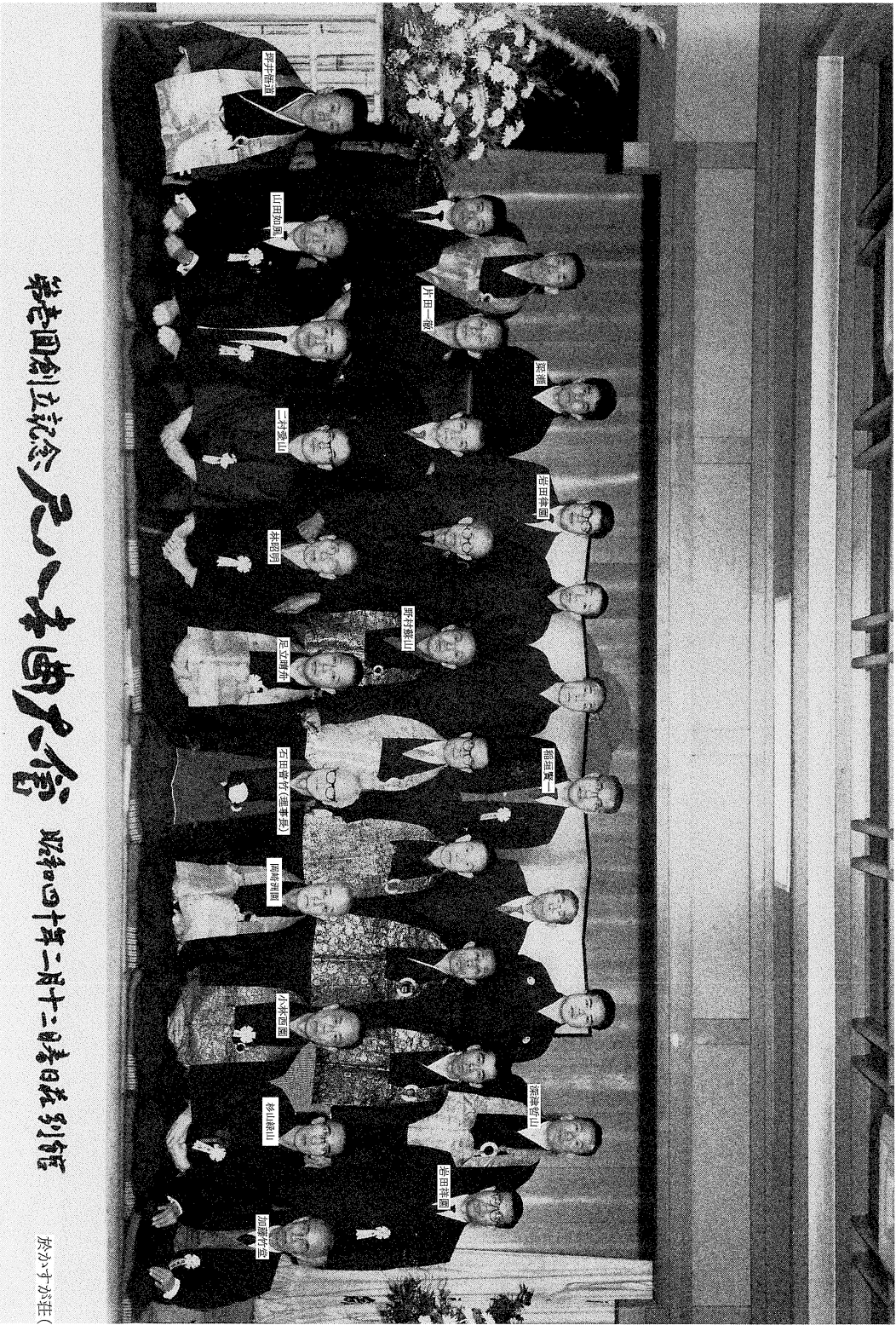


写真3



明暗寺法系第四十一世看首 児島抱庵傳法會 平成3年12月1日 於 明暗寺

写真4





写真6